



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久 (APIR 研究統括)

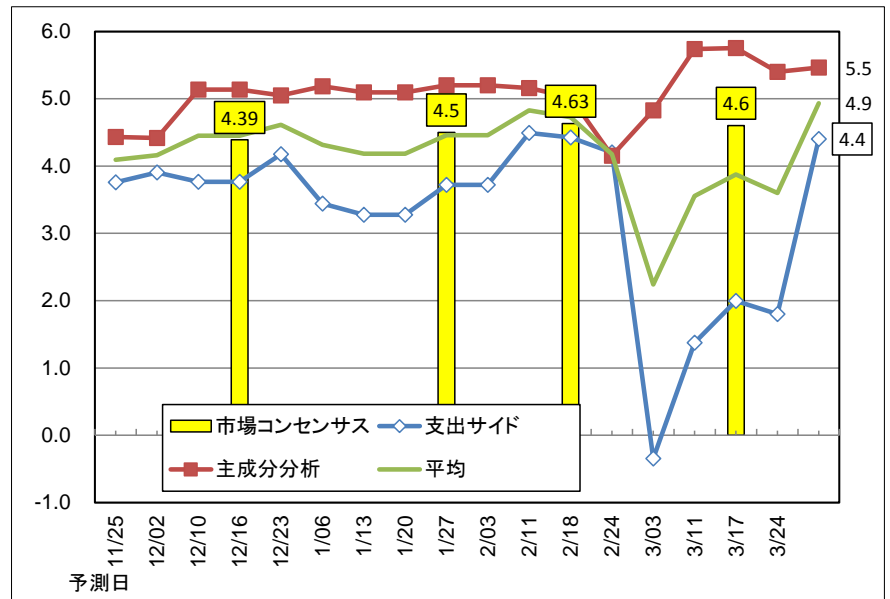
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2014年3月24日)

ポイント

- ▶今週の予測では、2月の貿易統計、1月の毎月勤労統計(確報値)、全産業活動指数及び建設総合統計が更新された。これらは公的固定資本形成、純輸出及び雇用者報酬の予測値に影響を与える。
- ▶1月の公共工事は2ヵ月連続の前月比マイナス。実績値は事前予測を下回ったため、1-3月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から下方修正された。
- ▶2月の貿易赤字は前月比-35.7%減少した。輸出の実績値は事前予測を上回り、輸入は下回った結果、1-3月期の実質純輸出の予測値は先週から大幅上方修正された。成長率への寄与度ベースでは前期比-0.3%ポイントと先週から上方修正された。
- ▶今週(3/24)の超短期モデル(支出サイド)は、1-3月期の実質 GDP 成長率を前期比年率+4.4%と予測。主として純輸出の予測値の上方修正により、先週の予測(+1.8%)から大幅な上方修正となった。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2014年1-3月期(%, 前期比年率換算)



<2月の貿易赤字は前月比縮小し、結果、1-3月期実質成長率予測は再び4%台へ>

今回更新されたデータは、2月の貿易統計、1月の毎月勤労統計(確報値)、全産業活動指数、旅行取扱額、建設総合統計及び景気動向指数(改訂値)である。これらのデータは公的固定資本形成、純輸出及び雇用者報酬の予測に影響を与える。

1月の公共工事は前年比+15.7%増加し24ヵ月連続のプラスとなったが、4ヵ月連続で伸びが減速している。季節調整値は前月比-4.2%減少し2ヵ月連続のマイナス。実績値は事前予測を下回ったため、1-3月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から下方修正された(前期比-1.1%→同-4.0%)。

2月の貿易収支(季節調整値)は36ヵ月連続の赤字となったが、前月比-35.7%減少した。2ヵ月ぶりのマイナス。四半期ベースで見ると、貿易赤字は2013年4-6月期、7-9月期、10-12月期、2014年1-2月平均と拡大しているが、伸びは幾分減速してきた。2月の輸出額は前月比+2.8%と2ヵ月ぶりのプラス。一方、2月の輸入額は同-6.0%と2ヵ月ぶりのマイナスとなった。輸出の実績値は事前予測を上回り、輸入の実績値は事前予測を下回った結果、1-3月期の実質純輸出の予測値は先週から大幅上方修正された(-6,130億円→3,549兆円)。成長率への寄与度で見れば先週の前期比-1.1%ポイントから同-0.3%ポイントへと上方修正された。

今週(3/24)の超短期モデル(支出サイド)は、1-3月期の実質 GDP 成長率を前期比+1.1%、同年率+4.4%と予測。公的固定資本形成の予測値は下方修正されたが、純輸出の大幅上方修正もあり、先週の予測(+1.8%)から大幅上方修正となった。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690